

された。理想とする産卵資源量は30%とも言われており、この実現のためには、漁獲開始年齢を変えなければ漁獲係数を1/3以下の0.333に、漁獲係数を変えなければ漁獲開始年齢を4歳に引き上げる必要があると考えられた。

表1 ヤナギムシガレイ水揚物の年齢組成(平成10年2月～平成11年1月)

年齢	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～
割合(%)	30.0	52.9	11.7	4.1	0.52	0.25	0.16	0	0.16	0.21

表2 ヤナギムシガレイの資源特性値

成長式	雌 $SL=33.7685(1-e^{-0.300(t+0.042)})$ 雄 $SL=30.5083(1-e^{-0.220(t+0.948)})$	} 島村・五十嵐(2000)
体長・体重関係式	雌 $W=0.0053SL^{3.3224}$ 雄 $W=0.008SL^{3.1646}$	
最大年齢	10歳	推定値
自然死亡係数(M)	0.25	田中の方法(2.5/寿命)
完全加入年齢	2歳	
産卵月	3月	
年間漁獲量	257.9 t	平成10年の底びき網漁獲量
再生産関係	加入量一定	
全減少係数(Z)	1.304	
性比	雌：雄 = 1：1	
成熟率	雌 1歳0%、2歳80%、3歳～100% 雄 1歳0%、2歳20%、3歳 80%、4歳～100%	} 推定値

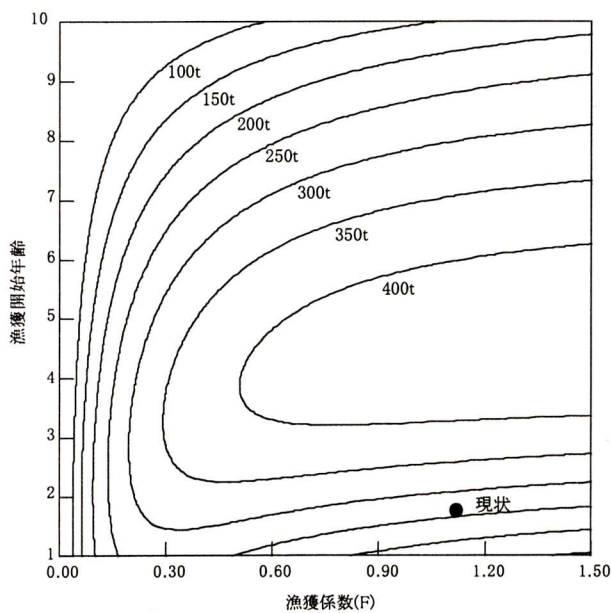


図1 等漁獲量曲線図

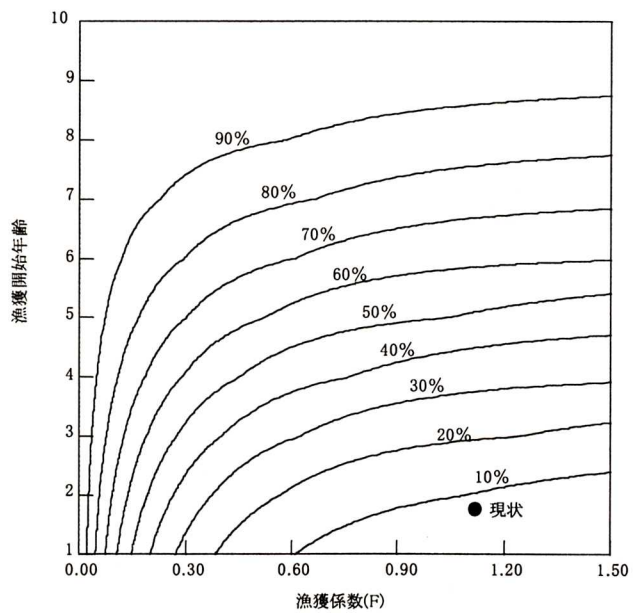


図2 等産卵資源量曲線図